

第3回策定検討委員会の委員意見に対する対応方針(案)

検討項目	委員意見	対応		スケジュール		
		反映の有無	対応方針	第4回委員会	今後	
生物多様性 ふくおか戦略 (仮称)の方向性について 【資料1-2】	外部環境	外部環境の“脅威”の欄に「生物多様性を福岡市の持続可能な“成長”につなげる上での追い風」と、“機会”と同様の内容が書かれているが。(薛委員)	反映	記載の誤りで、正しくは「生物多様性を福岡市の持続可能な“成長”につなげる上での向かい風」になるため修正。	→	
	ポテンシャル (マトリクス)	「福岡市の生物多様性の保全及び持続可能な利用のポテンシャル」で示している4×4のマトリクスの図は、最終的な印刷物に載せるのか。(薛委員)	検討中	市民に福岡市の生物多様性がどういう状況にあるのかをわかり易く説明したいと考えており、この図に限定せず、わかり易い説明材料を作成していくこととする。 (現在のマトリクスを若干改良したものを作成する)	→	
	地域特性区分	ほ乳類で当てはめた場合でも、割と区分できるため、概ねこの区分で良いのではないかと考える。(荒井委員)	反映	ご指摘を踏まえ、目標について書き分け可能か再考した上で、前回示した地域特性区分(案)を採用する。但し、「海洋域」については、水質改善など機能保全の取り組みについては、福岡市が所管する博多湾内まで対象とするが、筑前海や外洋からも生物多様性の恵みを受けていることを踏まえ、博多湾の外側も「海洋域」に含め、「目標とする姿」の中で書き分けを行うものとする。 また、地域特性区分には、市民に親しみのある代表的な自然環境も合わせて示す。	→	
		「内陸部(都市的地域)」の中においても河川のポテンシャルが非常に高いなど、重なる部分については悩ましい面もあるが、基本的な区分としては、今回示された地域特性の区分も成り立つかなとは考える。(小野委員)				
		面的なものとの線的なものが混在しているところが難しいところだが、許容範囲内であるとは考える。但し、取るべき行動が異なるために区分するものであって、その中で指摘する内容が同じになってしまうのであれば、区分する必要はない。(薛委員)				
		地域水環境の側面、生態系や水質などの側面からは、河川、河川からの引き込み、農業用水路、排水路など、常に一体的に考えており、河川部が独立していることには違和感があるものの、面として考える必要がある部分と、線として考える必要がある場合もあるため、河川を区分しておくのも一つの方法と考える。(平松委員)				
		目的に対してこうした区分が効率的であるかが重要であり、それが効果的であれば、多少、面や線が混在していても問題ないと考ええる。(矢部委員)				
この区分で良いと考える。こうした区分によって、山地もあり都市もある福岡市の特徴が出てくるものと考え。但し、「内陸部(都市的地域)」と「沿岸部(都市的地域)」の線引きをどこで行うかは難しいところではないか。(横山委員)						
神戸市の戦略のように「山」「川・海」「田園」「街」といった区分の方が市民にもわかりやすいと感じた。また区分の際には市民の誰もが知っているようなシンボリックな場所も合わせて示した方が良いと考える。(佐々木委員)						
「海洋域」という区分について、小呂島も含めた海域を含めた場合に、何が書けるのかという課題がある。市域全域と言っても小呂島まで入ってしまうが、どのように考えているか。海洋域、もしくは、小呂島周辺海域除外する方法もあるが、鳥や魚などは行き来していることもあり、戦略だということも考慮して再考してほしい。(浅野委員長)						
地域特性区分の示し方	区分や目標については、良いと考えるが、戦略の中でこうした区分を図示するのかを確認したい。例えば、明確な区分が示されるのか、楕円などで大まかなゾーンが示されるのか、文言だけで示されるのか。(志賀委員)	検討中	ご指摘を踏まえ、地域特性区分については言葉のみとし、図化はしないものとする。但し、各地域特性をわかり易く市民に示すため、代表的な自然環境等を写真やイラストなどで示すことを検討する。	→		
生物多様性 ふくおか戦略 (仮称)について 【資料1-1】	目標年次	福岡市の場合、消費地としての役割が大きいことから、今回の地域戦略では、ハビタットだけでなく、生態系サービスにも果敢に切り込む内容となっているが、その際、人口とのバランスが重要になるため、人口予測と対応しながら考えられた戦略であれば説得力が出るのではないかと感じる。但し、文字面としては100年の方が良いとも感じる。(志賀委員)	反映	国家戦略が100年後を目指して策定されているため、福岡市の地域戦略も100年後の目標とする。	→	
	理念と全体目標	「成長」というと右肩上がりなイメージがあるが、時勢からすれば「成長」ではなく、「持続可能な」という言葉の方が良いのではないかと。(横山委員)	反映	ご指摘を踏まえ各用語を見直す。 (例えば、下記のような見直しを行う) 「成長」→「持続可能な発展」or「永続的な発展」 ※「環境」という言葉に対して「発展」という表現を用いている例がみられる 「創る(創出)」→「育む(育成)」 「活かし」→「享受し」	→	
		理念にある、「市民の豊かな生活と、まちの持続的な発展」の中で、「まちの」という部分に違和感があるし、また意味も良くわからない。「まち」だけの発展でよいのか、「まち」をどのように捉えるかという問題もある。(横山委員)				
		「発展」や「成長し続ける」という部分を巧み置き換えられる言葉があると良い。(浅野委員長)				
		生物多様性を「創る」という部分は、果たして人間業で出来るのか。(薛委員)				
		私も、生物多様性の「創出」という言葉には違和感がある。「再生」くらいまでは何とか良いかと思うが。(荒井委員)				
	「創る」についても「育む」くらいの表現の方が、個人的にはしっくりくる。(志賀委員)					
理念の「活かし、守り、創る」の「活かし」については、恩恵を受けるといった意味合いがあるため「享受」と言った方が合っているのではないかと。(志賀委員)						

検討項目	委員意見	対応		スケジュール		
		反映の有無	対応方針	第4回委員会	今後	
生物多様性 ふくおか戦略 (仮称)について【資料1-1】	理念と全体目標	理念の中に、地理的特性と歴史性を踏まえた記述が入った方が良いのではないか。(佐々木委員)	反映	「理念」については、浅野委員長から頂いたご意見を踏まえて理念らしい書きぶりに変更し、佐々木委員の助言を受けながら事務局で検討する。「目標」については、新たに定める「理念」を踏まえて、今回の資料で「理念」「目標」としているものを精査し、再考する。なお、目標については、人の行動面を書くのではなく、生態系の状態を表現する。	→	
	例えば「最も古くて 最も新しいまち」というように、時間軸についても表現できると良いのではないか。(今田委員)					
	例えば「美しい脊振と 遥かにつながる玄海灘・・・ 過去千年にわたってそこに人が生きてきた・・・ そうした人々の営みは、生物多様性の恩恵に支えられており これからの100年も変わらず生物の多様性を継承し 人々が生きていく」というようなものが「理念」で、「目標」には、行政的な施策や取り組みで実現すべき内容を記載する。(浅野委員長)					
	全体目標、地域別目標ともに、人々の行動面を書くのではなく生物多様性の状態を書くようにする。(浅野委員長)					
	地域別目標	「定義」と「目標」を分けて書いた方が良いのではないか。(矢部委員)	反映	現状の生物多様性の状態と、100年後の目指すべき生物多様性の状態を、それぞれ提示する。100年後の状態については、あまり実現性の有無を気にせず、理想的な姿を記載する。	→	
	現状はこうで、100年後はこうなるというように、書き分けないと分かりづらいのではないか。(薛委員)					
	全体目標、地域別目標ともに、人々の行動面を書くのではなく生物多様性の状態を書くようにする。(浅野委員長)					
	100年後、50年後だからこそ夢を語りたい。(佐々木委員)					
	数年前に環境省で作成した都市の将来像には、街の中に緑が溢れていて、空にはタカが舞っているものだったが、そのようなイメージで、目標も書き込んで良いのではないか。(小野委員)					
	都市計画を定めているわけではないので、生物多様性の観点から言えることを示せば良い。例えば、「内陸部(都市的地域)」であれば、「健全な生態系ネットワークやコリドーが形成されている」ということや、「屋敷林が保全されている」、さらには「大規模な敷地を宅地は緑が植栽されている」などが該当するのではないか。(浅野委員長)					
	基本的方向	「1 地域の魅力の共有と維持向上」で言えば、「魅力」に対する認識・理解の共有、「魅力」から得られるサービス・恩恵の共有の2つの側面が書き分けられていない状態にあると考える。土地の共有と同じように捉えてしまうと消費型になってしまう。むしろ、生物多様性についての認識や感謝の気持ちが共有されるということではないか。「地域の生物多様性の恵みに対する認識の共有」などといった方が良いのではないか。(浅野委員長)	反映	「地域の生物多様性の恵みに対する認識の共有」と修正する。	→	
		「3 広域連携による生態系サービスの安定化」の「広域」については、一緒に何かをするということと、広域的な生物多様性の恵みに支えられていることを認識することの両方の意味があり、そこが上手く言い表せればと思う。(浅野委員長)	反映	「広域」については、「連携」の視点だけではなく、「周辺からもたらされる恩恵」についても加えた記載とする。	→	
		「4 地域固有の文化の再構築による誇りの醸成」については、想いだけが先行してしまっていて、言葉としてはわかり難くなっている印象がある。(浅野委員長)	反映	「生物多様性に育まれた地域固有の文化」とし、「再構築」「誇りの醸成」などの用語は、親しみやすい言葉に見直す。 (例えば、下記のような見直しを行う) 「再構築」→「育成」 「誇りの醸成」→「市民への愛着や誇りの浸透」	→	
		「4 地域固有の文化の再構築による誇りの醸成」の冒頭に「生物多様性に育まれた」と入れると納まりが良くなるように感じる。(今田委員)				
		「遺伝子の多様性」「種の多様性」「生態系の多様性」と、特に状態を表しているというともなく、また、「生態系」だけでは、「遺伝子」や「種」の多様性が欠落してしまう。そのため、「生物多様性」という表現で統一する。1～4全てに「生物多様性」という言葉を用いた方が良いのではないか。「3 広域連携による生態系サービスの安定化」についても「生態系サービス」という言葉を唐突に使用するよりも、「生物多様性の恵み」とした方が良いと考える。(浅野委員長)	検討中	基本方針には、全て「生物多様性」という表現を用いるとともに、「生態系サービス」は「生物多様性の恵み」という表現で統一する。但し、「生物多様性」という用語については、市民アンケートの結果も踏まえて、市民にわかりやすい表現に見直すことも検討する。	→	
行動計画	「3.リーディングプロジェクト」については、50年もしくは100年を目標とした戦略の中に、現在進行形の取り組みが入るのは問題があるのではないか。戦略の性格が曖昧になってしまうため、戦略本体に入れずに資料編で付ける方が良いのではないか。既に取組んでいるものであれば、囲み記事のような形で参考として入れるのが妥当ではないか。仮に、市長の決意もあって、今後50年続ける事業を書き込めるのであれば、戦略本体に入れても良いとは思う。(浅野委員長)	検討中	「リーディングプロジェクト」については、戦略本体には「リーディングプロジェクト」という形式では示さず、取り組み紹介として掲載する。(試みとして、森づくりのような100年スパンで取組むようなプロジェクトを示せるか検討する)	→		
	間接的な方向性に限って示すというのであれば、リーディングプロジェクトのような具体的な取り組みが出てくるのは齟齬があるように感じる。(薛委員)					
	私も戦略本体に入れない方が良いと考える。理念などを示している戦略と合っていない。(川口委員)					
	「将来に向けてこういうことをやりたい」ということが示せないかと期待はしたのだが。(荒井委員)					
	市民挙げて、教育に取り組んでいくんだという姿勢が示されるべきである。(佐々木委員)					
	100年の森プロジェクトというのがあるが、例えば、スギの人工林になっている市有地を広葉樹林に変えていくプロジェクトなどであれば戦略に載せる意義がある。(横山委員)					

検討項目	委員意見	対応		スケジュール	
		反映の有無	対応方針	第4回委員会	今後
全体構成について	「福岡市の魅力」については、自明のことのように思っているが、「魅力」が何を指すのかが分からなければ本意が伝わらないため言葉で示しておく必要があるのではないか。また、そこで生物多様性がどのように関わっているのかということは明記されている方がよい。その上で、それらを前提にして何をなすべきかを示す必要がある。(浅野委員長)	反映	戦略の冒頭に、「生物多様性とは」を解説する。また、生物多様性に支えられた福岡市の「魅力」がどのようなものか、また、それらがどのような形で生物多様性と関連しているかを解説する。	→	
	戦略の冒頭で、「生物多様性」に関する解説をきちんとし、定義づけする。(浅野委員長)				
事業者アンケートの結果について	産業部類別の回収率、業種別あるいは事業所の規模別に分析を行ってほしい。(今田委員)	反映	ご指摘を踏まえクロス集計を行う。	→	
	円グラフについては、否定的な意見、肯定的な意見、中間の意見など、ひと目で分かるような色使いに注意してほしい。(矢部委員)	反映	ご意見を踏まえて修正する。	→	
	グラフの色合いは、ユニバーサルデザインの面からも問題のある色表示である。(佐々木委員)				
	問10の選択肢に「生物多様性に資する製品やサービスを提供している」とあるが、それがそのような製品やサービスなのかかわかると有り難い。(志賀委員)	反映	アンケートでは、「生物多様性に資する製品やサービスを提供している」の内容まで聞いていないため、「生物多様性に資する製品やサービスを提供している」と回答した企業12団体に追加調査を実施する。	→	
第1回、第2回からの継続項目					
現状と課題	今回の資料の課題は、行政から挙げられた課題であると認識している。その他の様々な立場の人から挙げられる課題も重要であるため、課題の中に、農林業従事者の復興活動や自然環境、生態系に対する思いや、自然解説員のようにある特定の生物種に非常に関心の高い人は、生態系の変化を敏感に察知していると思うため、そのような方の意見を整理し、追記するとよいと思う。(今田委員)	検討中	今回の資料で提示している課題は、事務局で収集した既存文献を整理し、資料1-1で示した現状から、変化の方向を要因分析し、抽出したものである。ご指摘にあった環境活動を行っている市民団体や農林業従事者の意見については、NPO団体に対して既にアンケートを実施しているほか、市民や事業者に対してのアンケートも予定している。今後、それらの結果を整理し、市民の声として盛り込みたいと考えている。	→	
	現状と課題については、戦略づくりを進めながら、フィードバックし、修正を加えていく必要があると思う。(浅野委員長)	今後随時反映	委員意見を踏まえ、戦略づくりの中で必要に応じて加筆・修正を行っていくものとする。	→	
関連計画	関連計画を把握していく中で、今後2～3年の各計画の方向性がわかるとよいと思う。現在見直しを進めている計画については、見直した後の内容が反映されているとよりよいと思う。(佐々木委員)	検討中	来年度以降改定・策定される計画だけでなく、今年度改定する計画についても、まだ戦略策定されないものの、戦略の考え方に配慮していただく予定である。	→	
他地域との連携	県や国の関連計画や観光分野、アジア圏などの広域的な動きの把握や連携も必要ではないのか。(今田委員)	検討中	福岡市の関係している広域連携については、既に一部把握しているが、今後も把握を進める。	→	
	・市域内あるいは福岡都市圏で自己完結するのではなく、他の圏域との連携を重視したほうがよいと感じている。(浅野委員)				
	・野鳥の生息環境に関して、福岡市は、繁殖地、越冬地、中継地などの評価すべきファクターがあり、市域に限定した生態系の評価は難しい。この点においても、福岡市外を含めた他地域と連携する視点が大切ではないだろうか。(小野委員)	検討中	行動計画、推進体制の検討に際して、他地域との連携を視野に入れた計画を検討。(具体的にどの程度まで踏み込むか、要協議。)	→	
	・他地域との連携の視点をもつことが重要だと思う。特に、哺乳類の場合には、個体数の増減を広域で捉えた方がよい。(荒井委員)				
用語の使い方	・生物多様性ふくおか戦略(仮称)を策定する際には、この戦略を読んでもらう対象者層を設定し、「生物多様性」や「生態系サービス」などの用語の使い方に留意した方がよい。(荒井委員)	検討中	市民アンケート調査結果なども参考にしながら、戦略の素案を作成する段階で、一般の方にもわかりやすいよう、表現を工夫。	→	